

第3章 盲学校小学部での漢字指導状況について

第1節 盲学校小学部国語点字教科書での漢字の扱い

1. 盲学校小学部点字教科書編集の基本方針

盲学校小学部点字教科書編集資料（2005）によると、盲学校小学部点字教科書は次の4点を編集の基本方針として示している。

- (1) 原典の内容そのものの大幅な変更は行わないこと。
- (2) やむを得ず原典の内容を修正したり、差し替えたりする場合には、児童の特性を考慮するとともに、必要最小限にとどめること。
- (3) 特に図、表、写真等の取扱いは、慎重に行い、できる限り原典に沿った点訳ができるように工夫すること。
- (4) 点字教科書のページは、奇数右ページの右上欄外に示した。また、原典のページは、奇数右ページの左上欄外に「メ」の字に挟んで示した。

また、「点字教科書取扱上の留意事項」において、やむを得ず一部を削除してあるところの指導は、それぞれの学習のねらいを踏まえて、適切な教材・教具の活用をはかり、点字教科書の内容を補うような配慮の必要性が記載されている。

2. 国語点字教科書編集の漢字に関する取扱についての具体的方針

平成17年度から盲学校で新たに使用されている国語の教科書は、光村図書出版株式会社のものである。この教科書選定の観点は、まず、点訳が比較的しやすいこと及び弱視児にも比較的に見やすいことなどによる。

国語点字教科書では、普通の文字の仮名文字や漢字に関する教材について、次のような方針により編集されている。以下、盲学校小学部点字教科書編集資料（2005）、各教科編集の概要、国語より引用する。

- (1) 国語の正しい理解を促すために、普通の文字の仮名文字や漢字に関する教材については、その基本的な知識となるものを選定して掲載する。
 - ① 「漢字のひろば」は、該当する漢字部分に第1カギ（ $\ddot{\cdot}$ $\ddot{\cdot}$ ）を付けて示し、さらに課題に取り組む際に必要な、イラスト部分についての解説を言葉や句で追加した。しかし、課題の内容上、イラストで示された事柄について詳細な説明を加えられないため、説明は必要最小限のものにとどめてある。従って、指導に当たっては、課題の意図をふまえ十分な工夫と配慮が必要である。
 - ② 「覚えておきたい漢字」は、小学校学年別漢字配当の中から次の基準に沿って82字を選定し、2年生までの教材で扱われなかったものを1年2巻から2年2巻までの巻末に掲載した。
 - ・ 日常生活の中で字形をもとに語られる漢字
 - ・ 部首のもとになる漢字
 - ・ 画数が多いために児童の負担になることのない漢字
- (2) 漢字の音訓については2年生までは、「読み方が新しい漢字」の表題で、各教材末に例1のよ

うに掲載する。また、3年生からは、新出漢字は「新しく学習する漢字」の表題で、各単元教材末にある新出漢字を、文中の語句を抜き出して例2のように音訓と共に示す。また新出音訓は「読み方が新しい漢字」（例1に同じ）、熟字訓は例3のように「特別な読み方をする言葉」の表題で音訓とともに示す。この時、訓を示す場合、送り仮名は第2つなぎ符（ㇿㇿ）を用いる。なお、原典の巻末にある「この本で習う漢字」、該当学年までに習った漢字は削除する。

例1 「だい」すき（おおㇿㇿきい）（1年）

例2 「ひら」く（カイ□ひらㇿㇿける□あㇿㇿける）□□「カイ」テン□□みちが□「ひら」
ける□□ふたが「あ」く□□どあを□「あ」ける。（3年）

例3 「けさ」（こん□いま、ちょー□あさ）（3年）

3. 点字教科書を使用する上での留意点

1. 及び2. で記載した通り、点字教科書は、原典教科書の内容をやむを得ず一部削除したり、イラスト等で示された事柄について詳細な説明が加えられなかった部分がある。その部分については、指導者がそれぞれの学習のねらいを踏まえ、適切な教材・教具の活用をはかり、点字教科書の内容を補うような配慮をしていかなければならない。当然のことながら、指導者は、原本教科書の内容が点字教科書ではどのように扱われているのか十分理解した上で、補助教材や補足説明をしていくこととなる。本研究を進めるにあたり、国語点字教科書の漢字を扱った単元で、どのような補助教材や補足説明が必要なのかを概観するために、各学年で漢字を扱った単元を抜き出し、原典教科書と盲学校点字教科書編集資料に記載されている修正内容、さらに実際の点字教科書とを見比べてみた。ここでは、各単元についてどのような補助教材や補足説明が必要なのか、それぞれに指摘はしないが、点字教科書を使用した授業では、十分な教材研究の必要性、適切な補助教材や補足説明の必要性を再認識するものとなった。この作業を行ったときの資料は後段の資料編に参考までに掲載する。

第2節 点字使用児童への漢字指導に関する調査

I. 調査目的

点字使用児童に漢字・漢語の知識をどのように指導しているのか。本調査の目的は、盲学校小学部の点字使用児童に対する国語教科書中の漢字を扱った単元の指導状況を明らかにし、課題を整理することにある。

II. 調査方法

1. 調査期間

17年度の指導状況調査であるので、全指導が終了あるいは見通しが持てるであろう時期を考慮し、次の期間を設定し、対象となる盲学校長宛に調査票を郵送した。

調査票送付：平成18年2月27日

調査票回収：平成18年3月20日

2. 調査対象

平成17年度小学部普通学級を設置している盲学校60校に調査票を郵送し、そのうち、学年相応の学習を行っている点字使用児童が在籍している学級を調査対象とした。回答者は各学年の国語指導担当者に依頼した。対象学級数及び回収率を表1に示す。

表1 調査対象学級数及び回収率

	調査票送付	回収
小学部普通学級設置校数	60校	57校
学級数	178学級	173学級 (回収率97%)
		(内訳)
		学年相応 133学級 (調査対象とする)
		1年：26 2年：22 3年：20
		4年：21 5年：23 6年：21
		下学年適応及び弱視児のみ 40学級

盲学校小学部に普通学級を設置している60校の全学級数は178学級であり、そのうち、57校173学級分の回答があった(回収率97%)。回答のあった173学級のうち、点字使用児童が在籍し、学年相応の学習を行っている学級は133学級であり、これを調査対象とする。

3. 調査内容

盲学校小学部で使用している国語教科書(光村出版)の1年から6年までで漢字に関する事項を扱った単元を抜き出し、次の(1)から(7)の項目について調査を実施した。(実際の調査票は資料として巻末に掲載)

(1)指導の有無

(2)指導状況

- ・漢字には特に触れず、本文の内容にそって指導
- ・点字教科書に点図として記載されている漢字を中心に指導

- ・新出漢字を中心に指導
 - ・新出漢字以外の漢字についても指導
 - ・その他（具体的に記載）
- (3) 漢字についての指導内容（複数選択可）
- ・漢字の読み、意味の指導
 - ・漢字の字形
 - ・漢字の画数
 - ・漢字の筆順
 - ・漢字の構成と読みや意味の関係
 - ・漢字の字源
 - ・パソコンで漢字を変換しながら読みと意味の指導
 - ・その他（具体的な指導内容を記載）
- (4) 補助教材の使用状況（複数選択可）
- ・特に使用していない
 - ・使用している
 - 自作の場合→立体コピー ^{*1} レーズライター 点図 その他（具体的に記載）
 - 既製教材（具体的に記載）
- *1：盲人用表面作図器→特殊な用紙をゴム状の下敷きのにせ、ボールペンなどで筆圧を強めに書くとその線が浮き上がり、触覚的読み取ることができるもの。
- (5) 点字使用児童に漢字を指導する際、配慮している点
- (6) 国語の授業以外での漢字指導の有無（行っている場合の時間帯、時間数、内容）
- (7) その他、漢字指導に関する課題

各学年で取り上げた単元の選定基準は次の通りである。

- ・盲学校小学部国語点字教科書で点線文字（ローマ字を除く）が記載されている単元
- ・漢字の広場
- ・漢字の音訓や構成を取り上げており、盲学校点字教科書編集において何らかの追加・修正がなされた単元。
- ・点字教科書巻末追加事項「おぼえておきたいかん字」

Ⅲ. 結果と考察

調査対象 133 学級の学級構成状況を表 2 に示す。

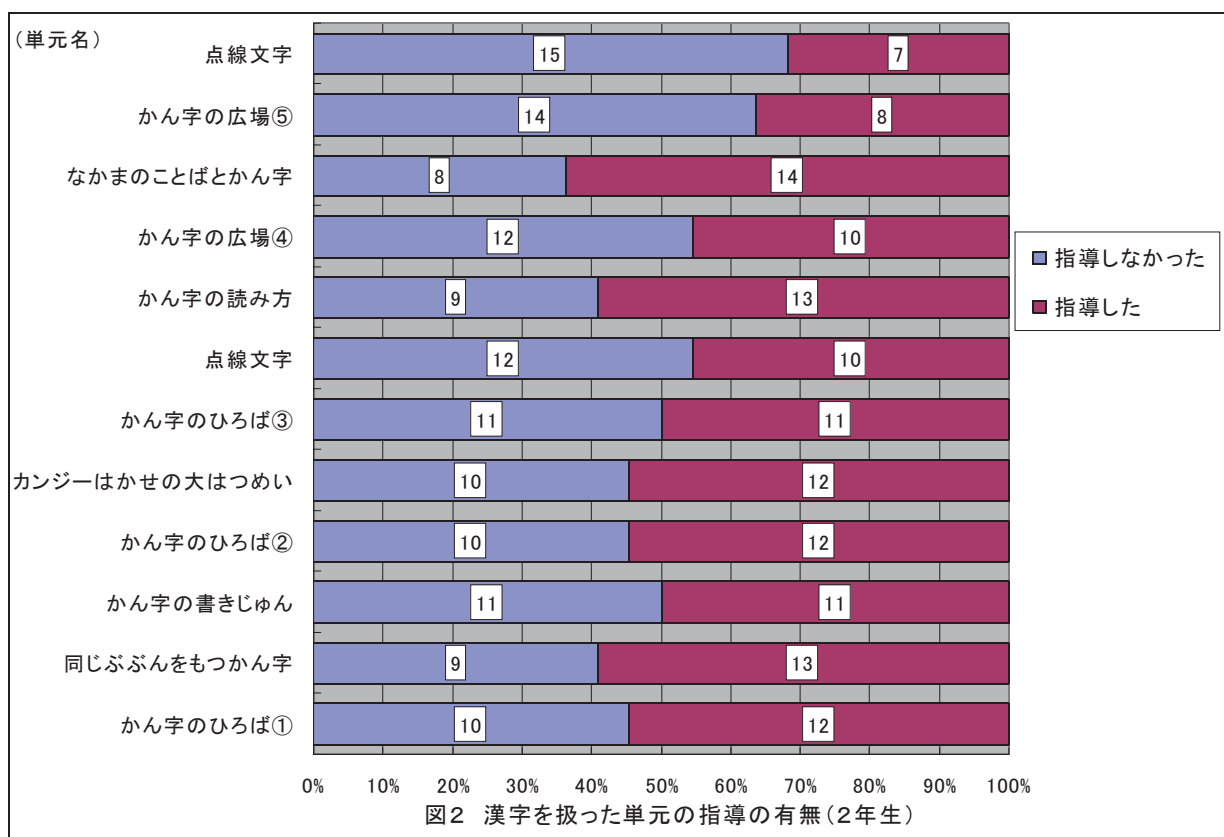
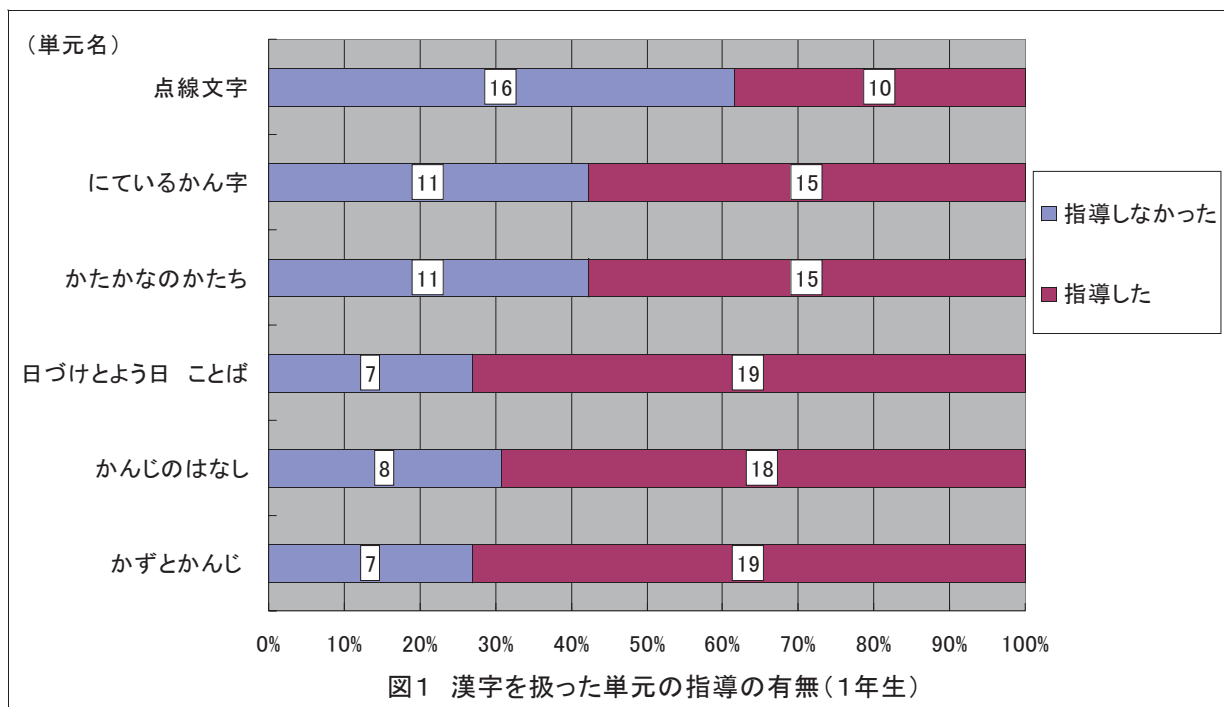
表 2 点字使用児童が在籍している学級構成状況

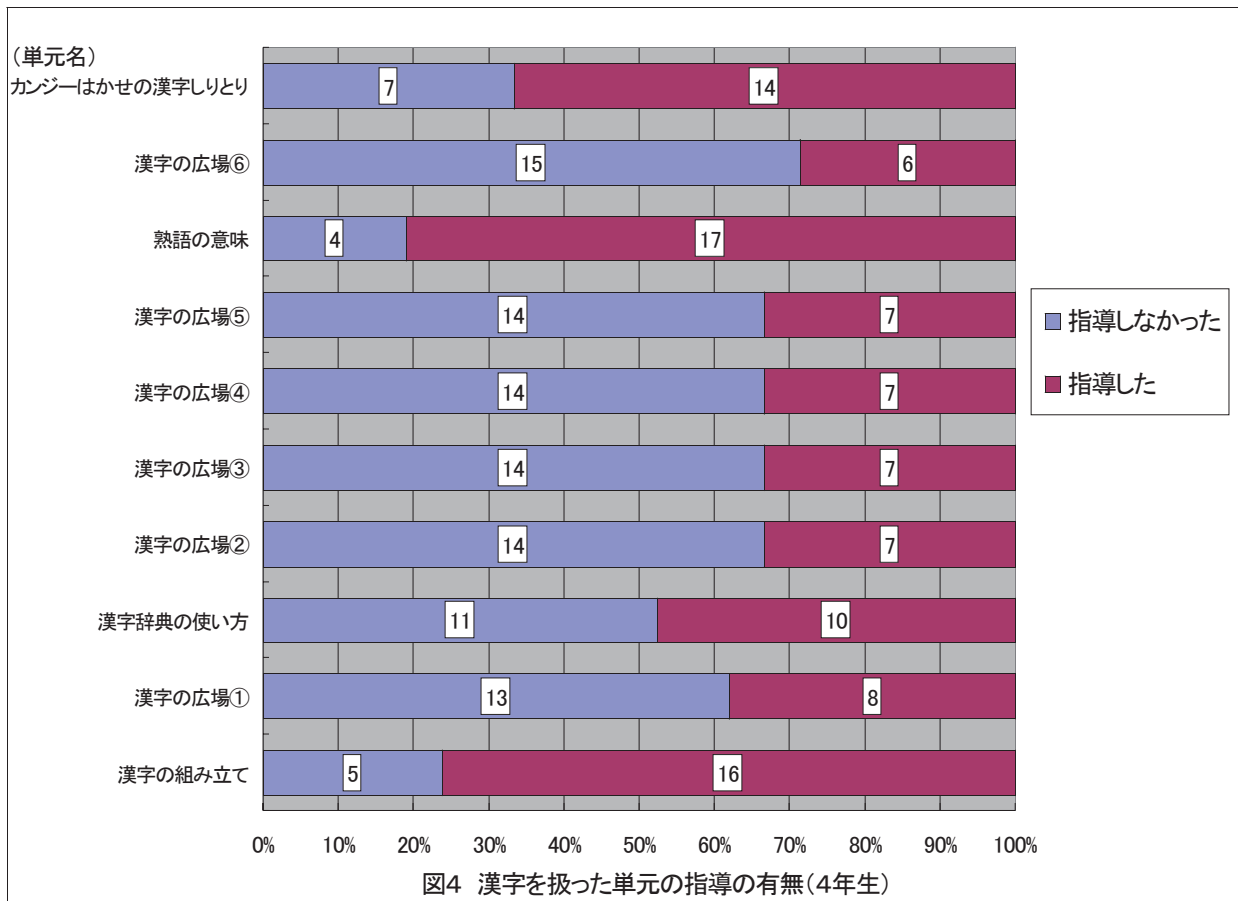
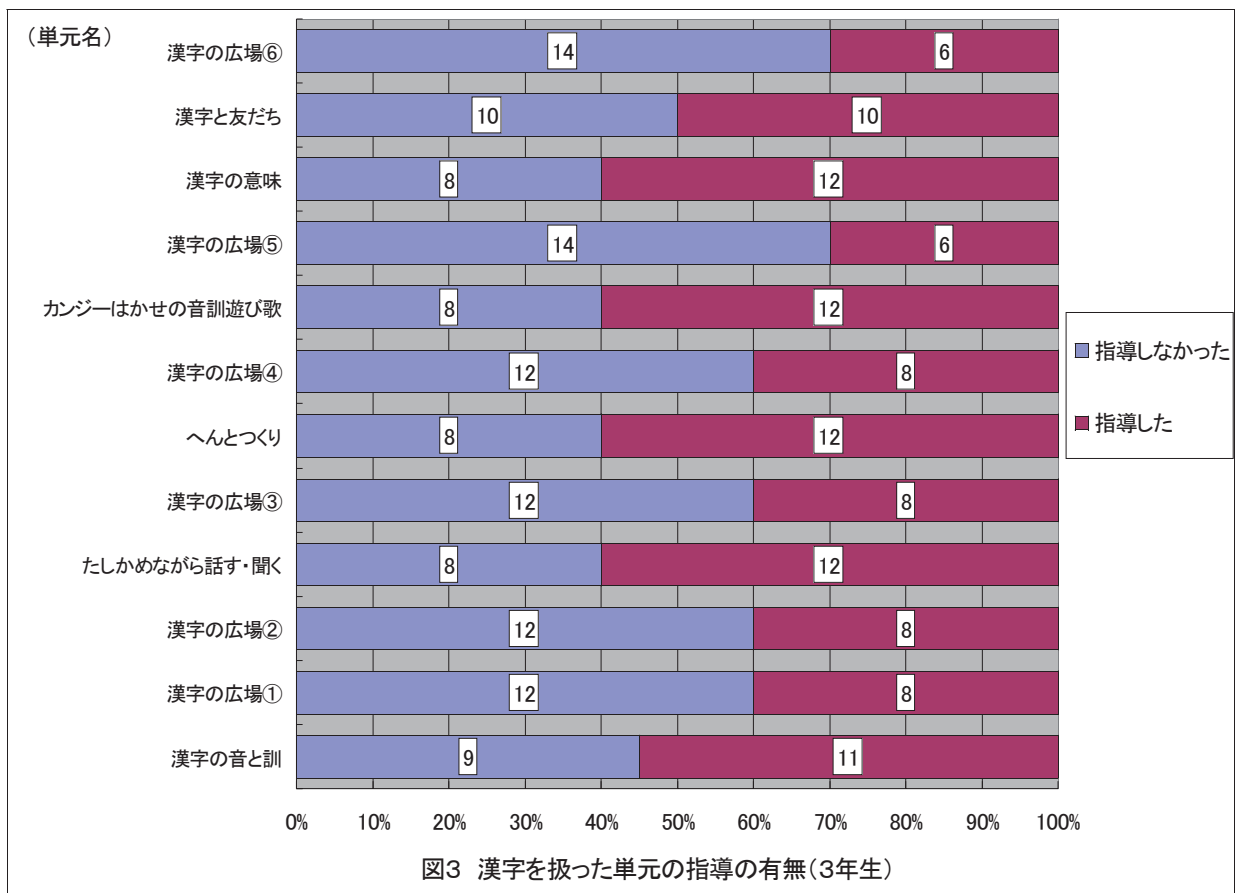
学級構成		1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
点字使用児童と墨字使用児童の混合学級		4	5	6	4	9	8	36
点字使用児童のみの学級								
	1名	16	13	6	12	10	11	68
	2名	4	4	6	3	3	2	22
	3名	2	0	1	1	1	0	5
	4名以上	0	0	1	1	0	0	2
計		26	22	20	21	23	21	133

133 学級中、点字使用児童のみで構成されている学級が 97 学級（73 %）、そのうち、点字使用児童 1 名のみで構成されている学級が 68 学級（全学級数の 51 %、点字使用のみ学級中 70 %）であった。点字使用児童と墨字使用児童の混合学級は 36 学級（27 %）であった。

(1) 各単元の指導の有無について

各単元の指導の有無を学年ごとに表したのが図 1 から図 6 である。1・2 年の単元名で「点線文字」とあるのは各巻末にある「覚えておきたい漢字」を指す（以下同じ）。





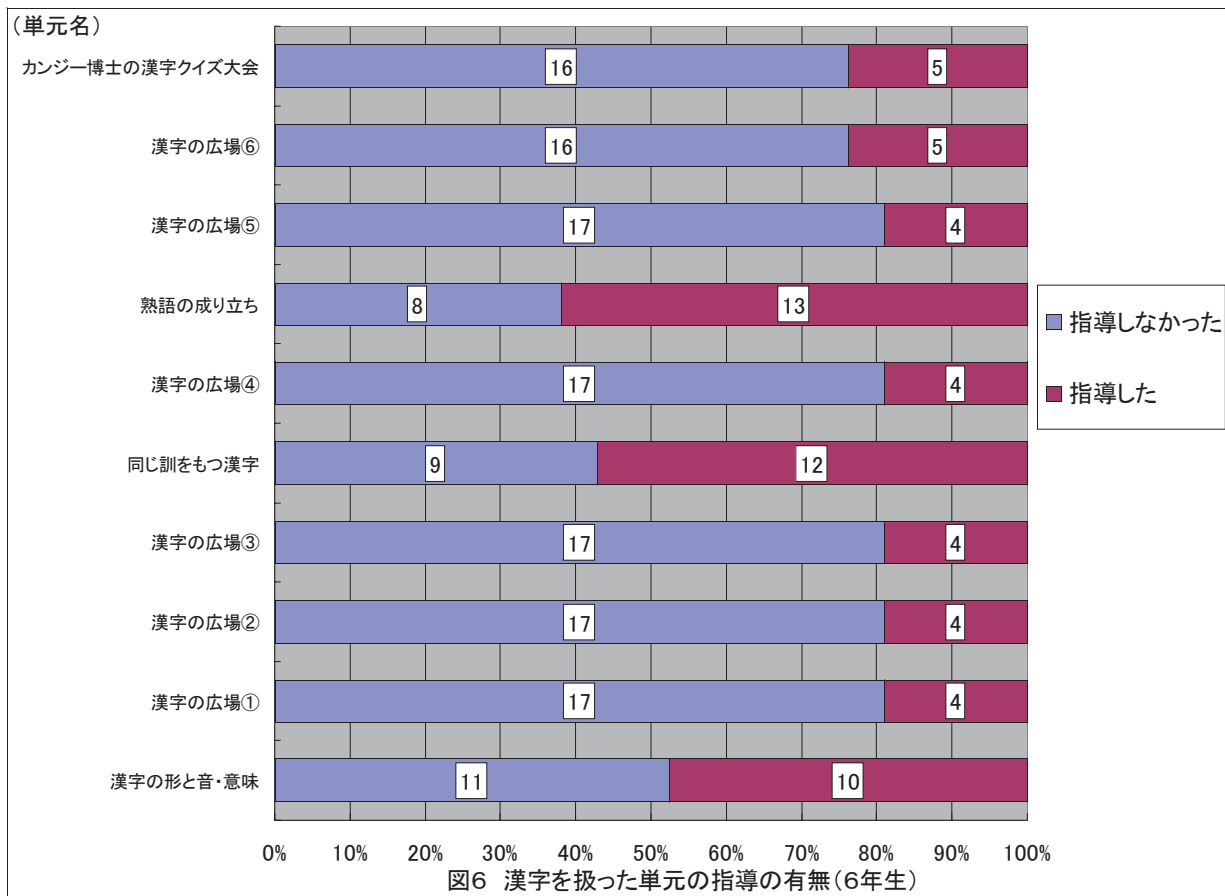
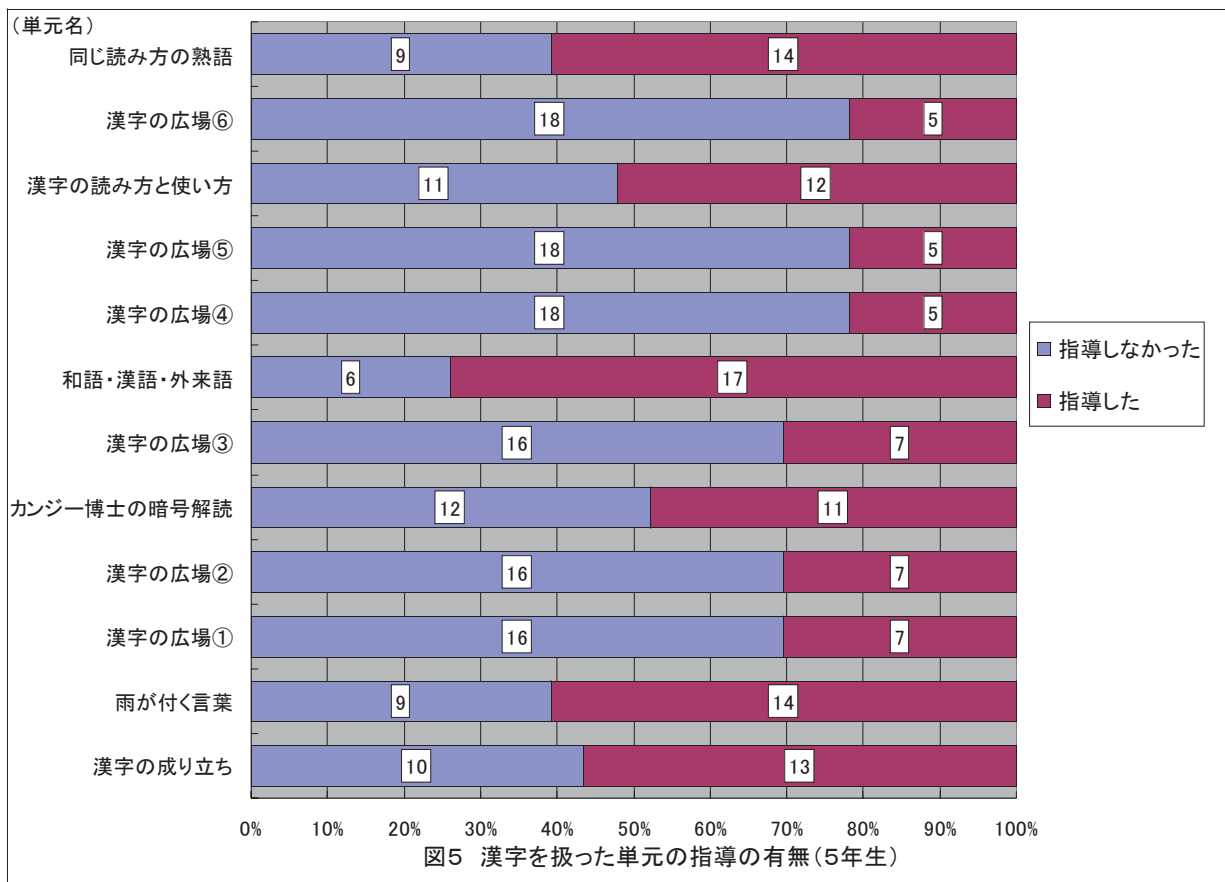
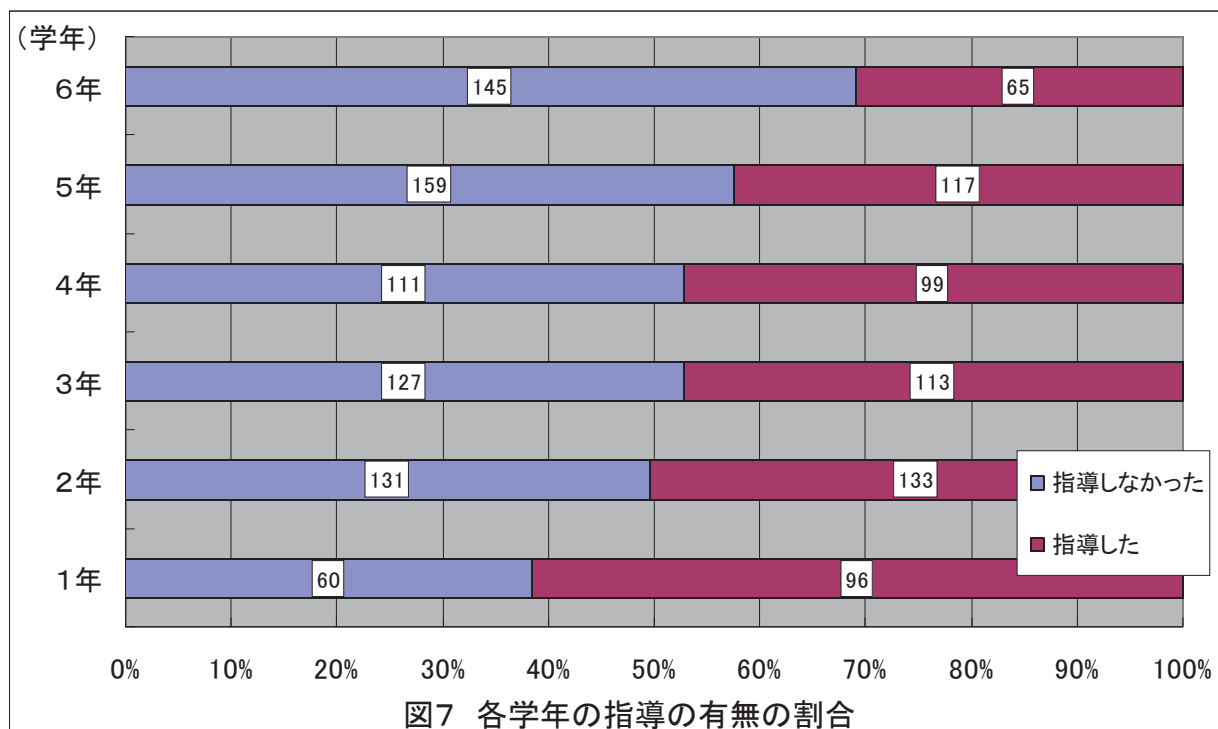


図7は、各学年での指導の有無の割合を比較したものである。



これらを通して見ると、学年が上がるに従って、指導をしなかった割合が徐々に高くなっている。1年と6年を比較してみると、1年では指導しなかった割合が38%、指導した割合が62%、6年では1年とは逆に、指導しなかった割合が69%、指導した割合が31%であった。

また、2年以降に「漢字の広場」という単元が設定されているが、各学年、この単元を指導していない割合が特に高い。この単元はイラストの中に前の学年で学習した漢字が示されており、絵を見て想像を広げ、これらの漢字を使って文章を書くことを目標としている。この「漢字の広場」について、盲学校小学部点字教科書編集資料（2005）においては、次のように記載されている。「『漢字のひろば』は、該当する漢字部分に第1カギ（㊦ ㊧）を付けて示し、さらに課題に取り組む際に必要な、イラスト部分についての解説を言葉や句で追加した。しかし、課題の内容上、イラストで示された事柄について詳細な説明を加えられないため、説明は必要最小限のものにとどめてある。従って、指導に当たっては、課題の意図をふまえ十分な工夫と配慮が必要である。」

実際の例として、図8に原本教科書2年生の「漢字の広場」とその部分の盲学校小学部点字教科書編集資料を示す。これを見ると点字教科書では、最小限の語句のみの列挙で、イラストの説明がない。語句の列挙の後には、この語句を使った文章例として、原本教科書と同様に、次のような一文が示されている。

例
「月」曜日、「一年生」を学校の「正」門まで、連れて行ってあげました。

上級生が一年生の手を引き、正門を指さしているイラストの説明がないと「月」「正門」「一年生」の語句から、このような文章を作ることは難しいであろう。次の「火」「文字をつくる」も同様で、「葉っぱ」を手にしている子どもの説明が必要である。このように、この課題に取り組む場合、イラストの情報は必須である。編集資料の配慮事項で述べられている通り、指導者がイラスト

木 | 水 | 火 | 月 |

一年生でなつたかん字③

かん字のひろば

▼絵の中のことはをつかって、一週間のできごとを書きましょう。

系でんわ | 休み時間 | 文字をつくる | 一年生 |

日 | 土 | 金 |

月曜日、一年生を学校の正門まで、つれていってあげました。

虫とり | 早おき | 雨 |

・文も・正門
字

資料8 「かん字のひろば②」(2年上 P78)

つぎのことはをつかって、一週間のできごとを書きましょう。かん字には「」がつけてあります。

□□「げつ」 □—□「せい」 もん□□「1ねんせい」

□□「か」 □—□「もし」を□つくる

□□「すい」 □—□「やす」み□じかん

□□「もく」 □—□「いと」でんあ

□□「きん」 □—□「あめ」

□□「ど」 □—□「はや」おき

□□「にち」 □—□「むし」とり

盲学校小学部点字教科書編集資料

78

2年生原本教科書

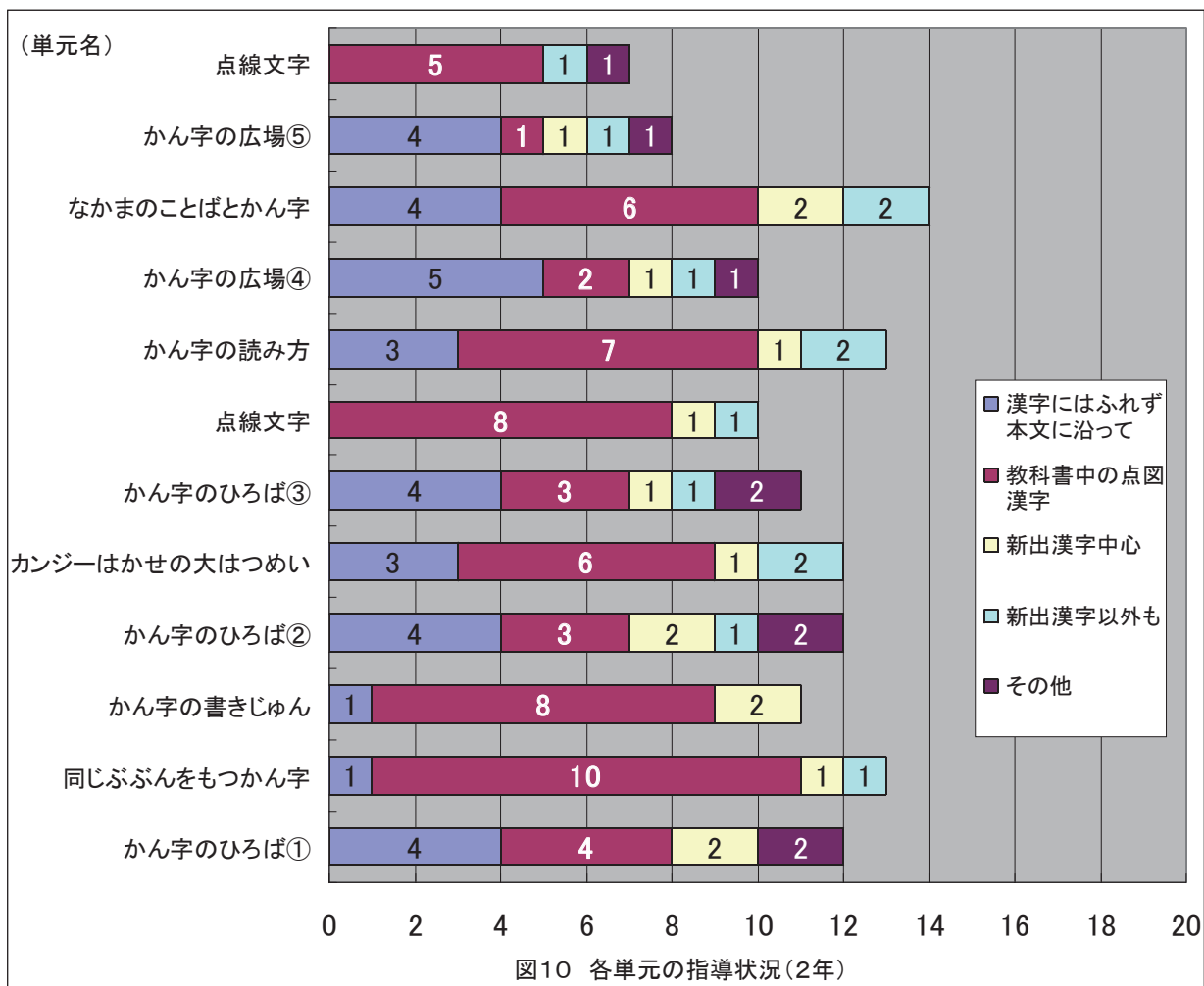
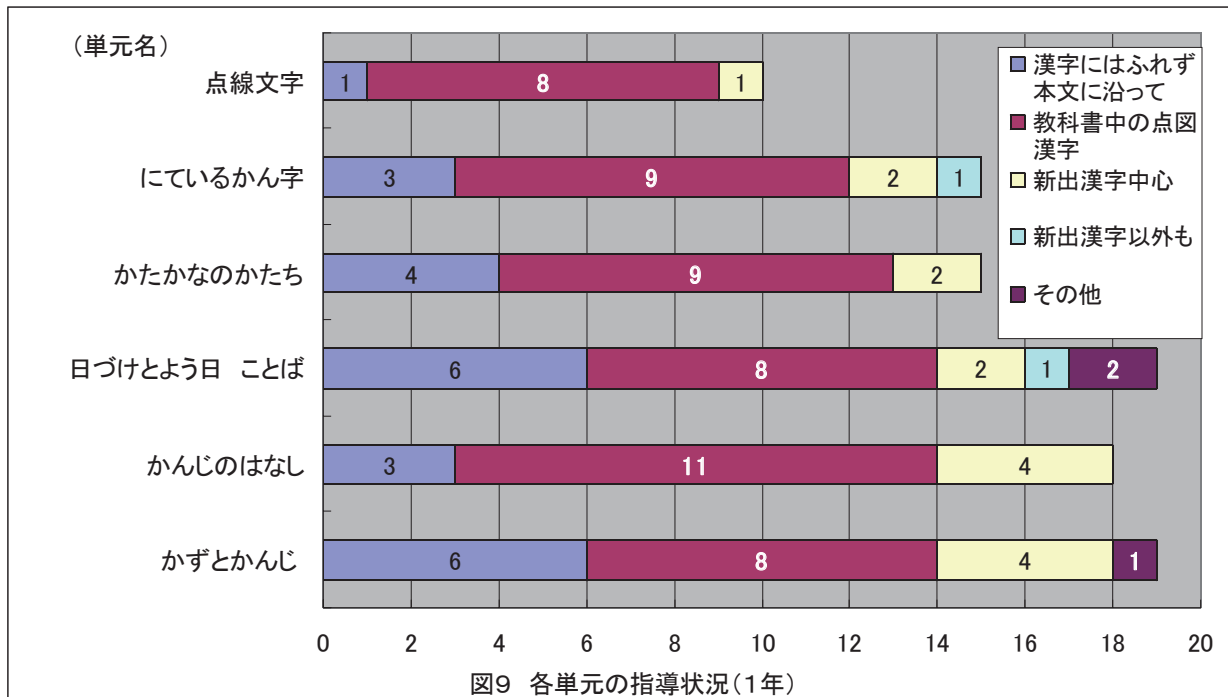
図8 「漢字の広場」原本教科書と点字教科書編集資料の実際

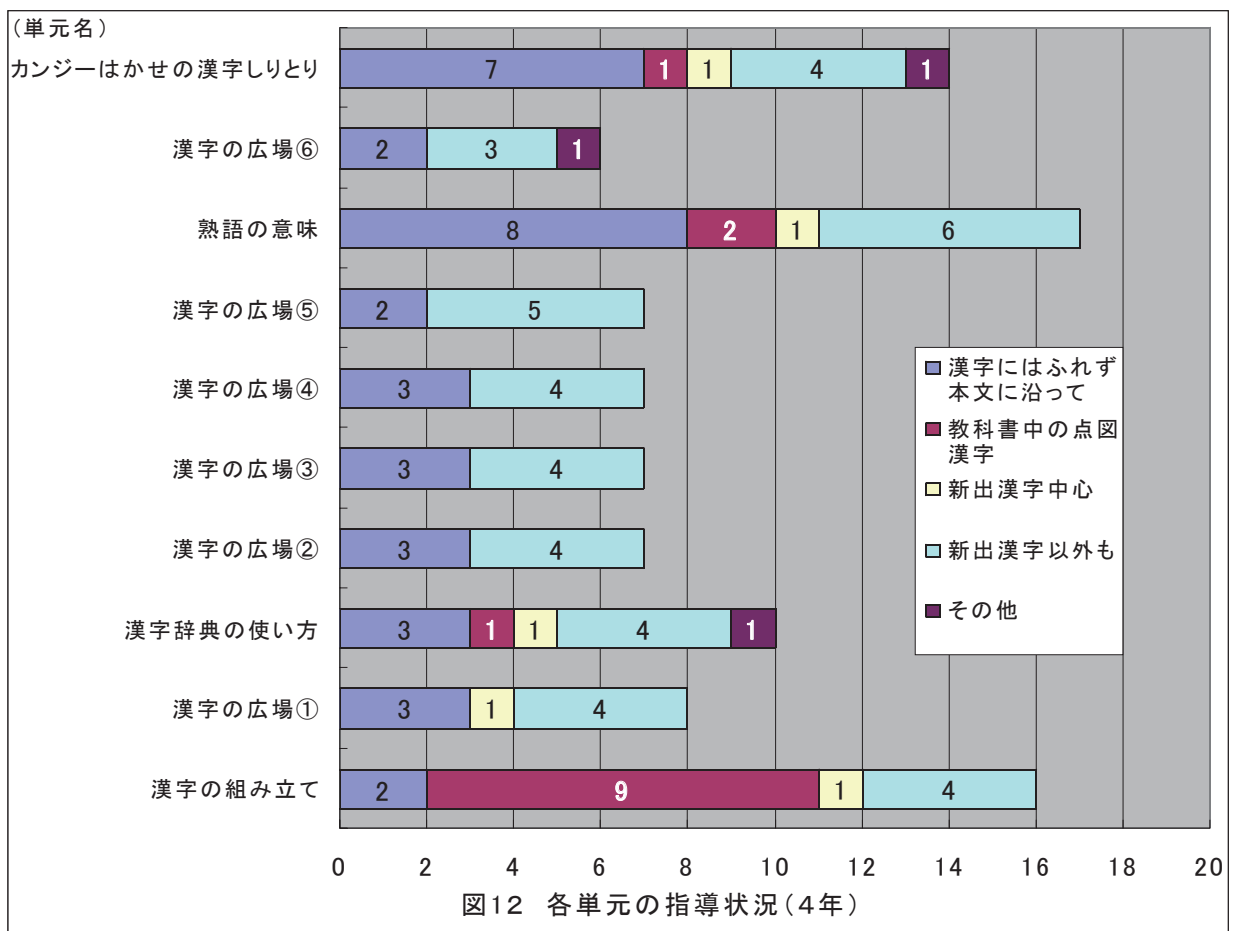
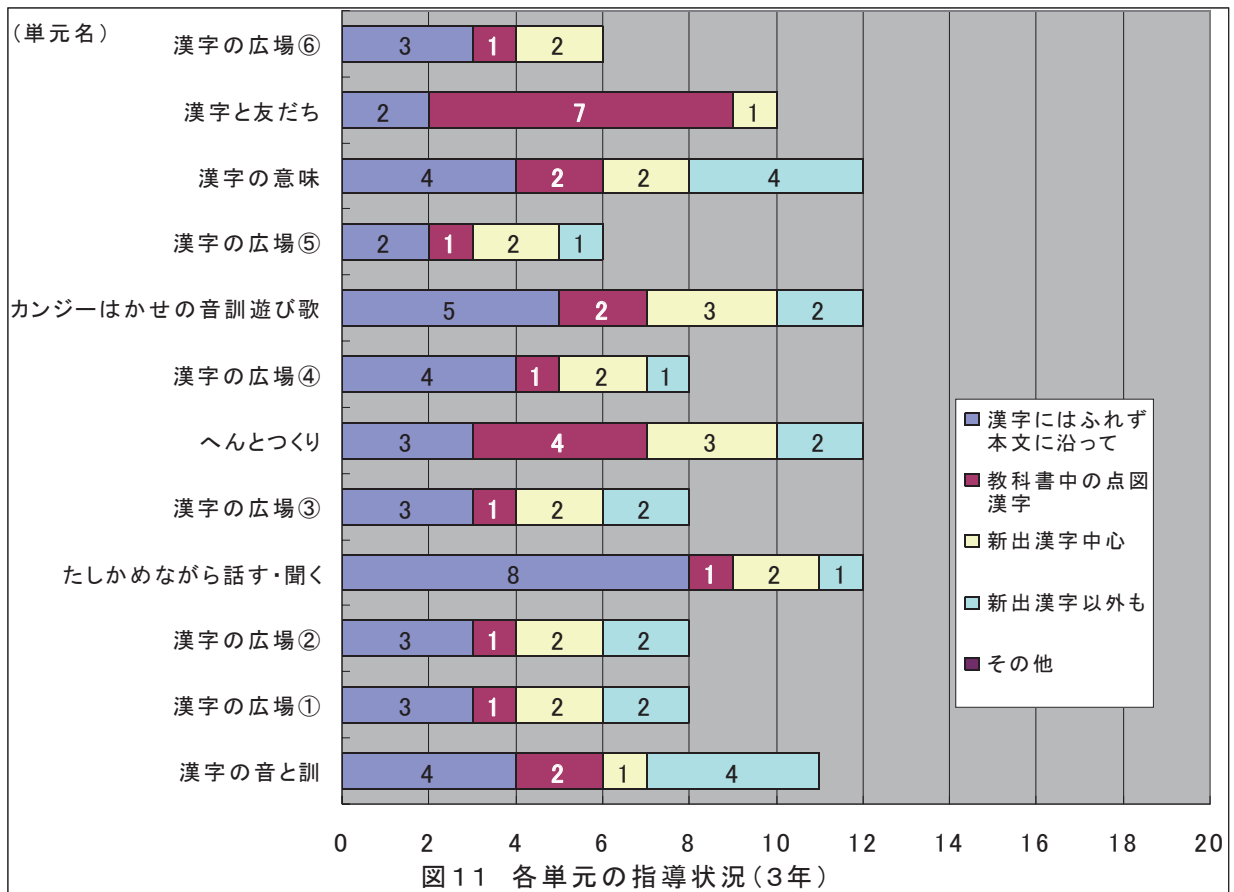
の説明を加える等、何らかの工夫と配慮が必要である。
 では、この「漢字の広場」を指導していると回答した学級ではどのように指導しているのだろうか。この単元を含めて、各単元の指導状況を次に見ていく。

(2)各単元の指導状況

各単元の指導状況を図9から図14に示す。点字教科書では、その単元によって点線文字が示されているところとないところ、また一部の漢字のみの例示であるところがある。さらに各単元には、指導内容・目標があるので、それによって、当然、指導状況は異なってくる。したがって、この結果を全て一括りにし、その状況の傾向を述べることはできず、個々の単元ごとにその内容・目標に照らし合わせながら丁寧に分析していく必要がある。

点字教科書編集資料によると、点字教科書中の点線文字は、国語の正しい理解を促すために、その基本的な知識となるものを選定して掲載している。では、どのような文字種なのか、各単元ごとの点線文字をまとめたものを表3に示す。





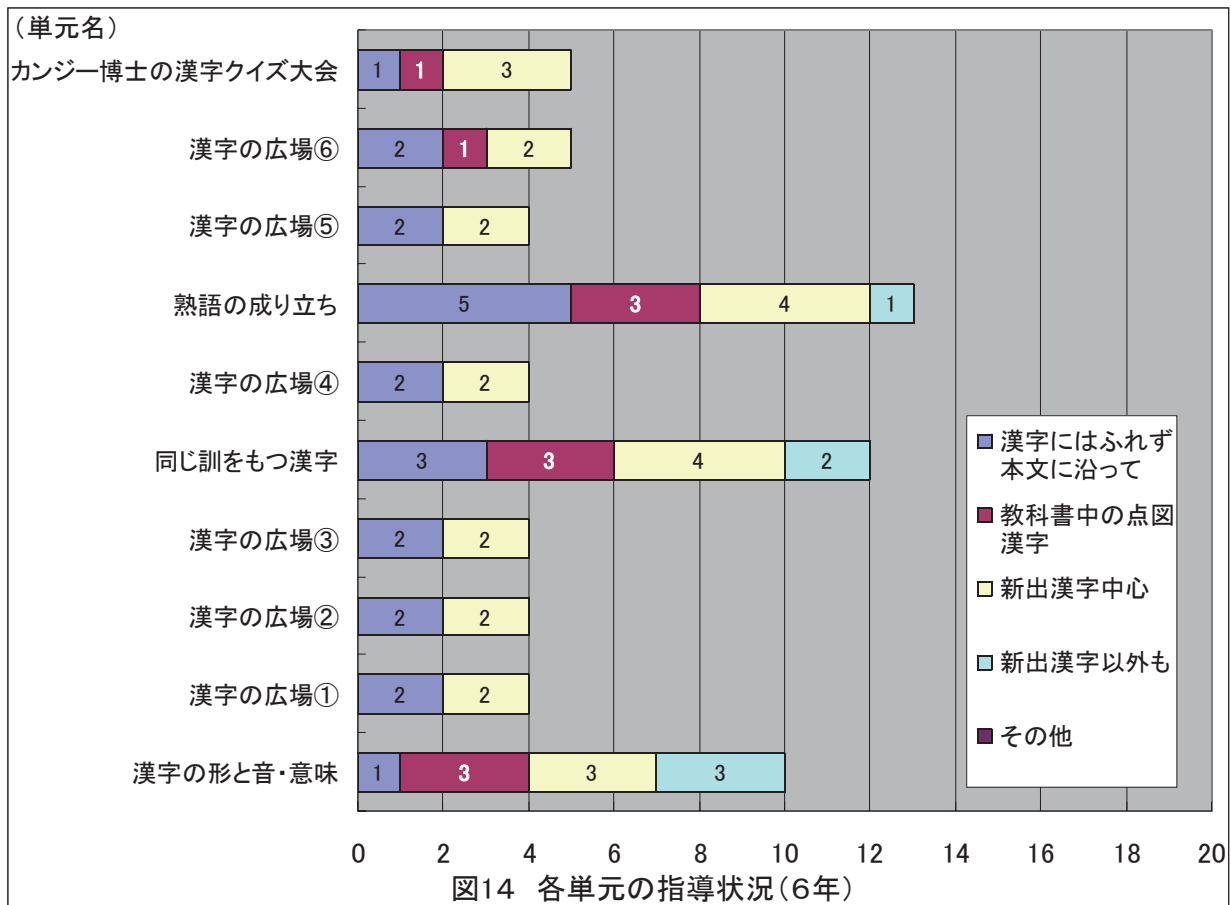
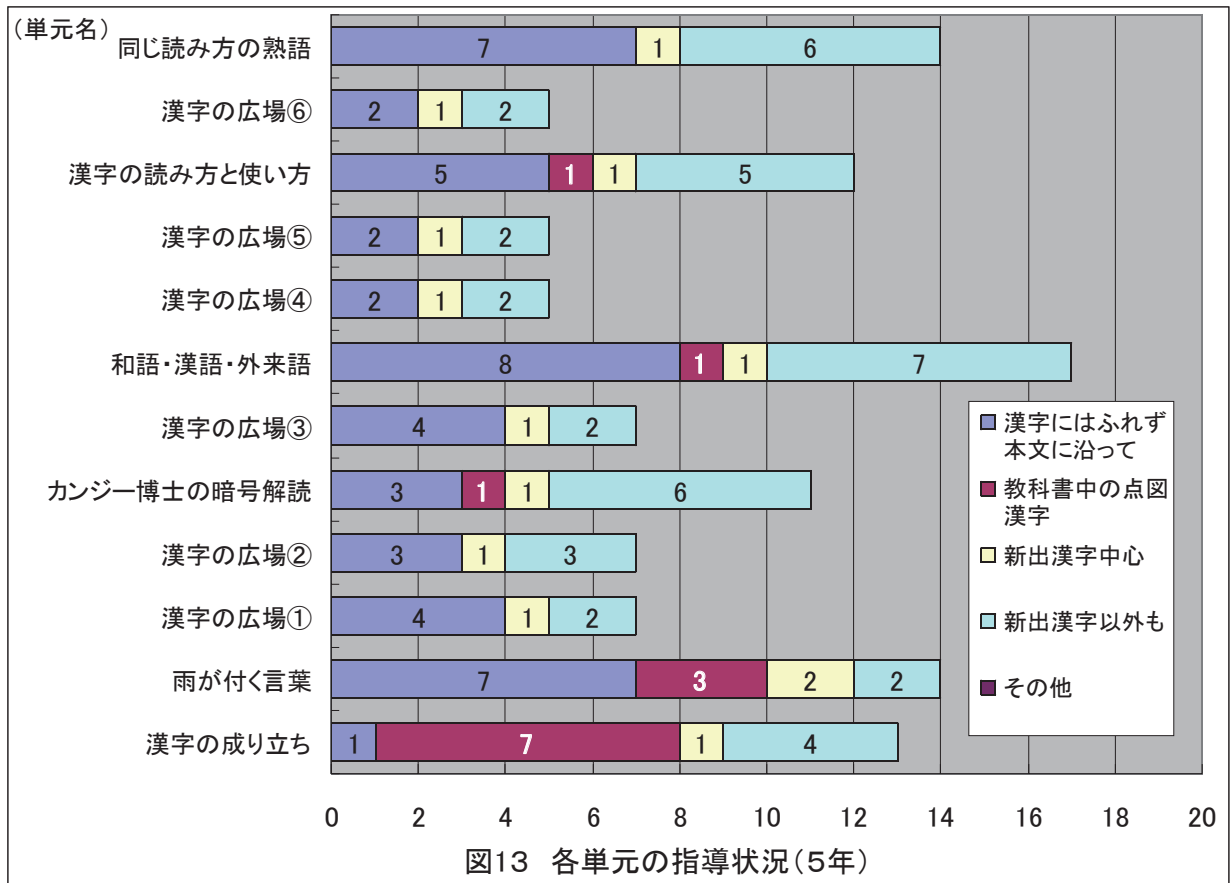


表3 各単元ごとの点線文字

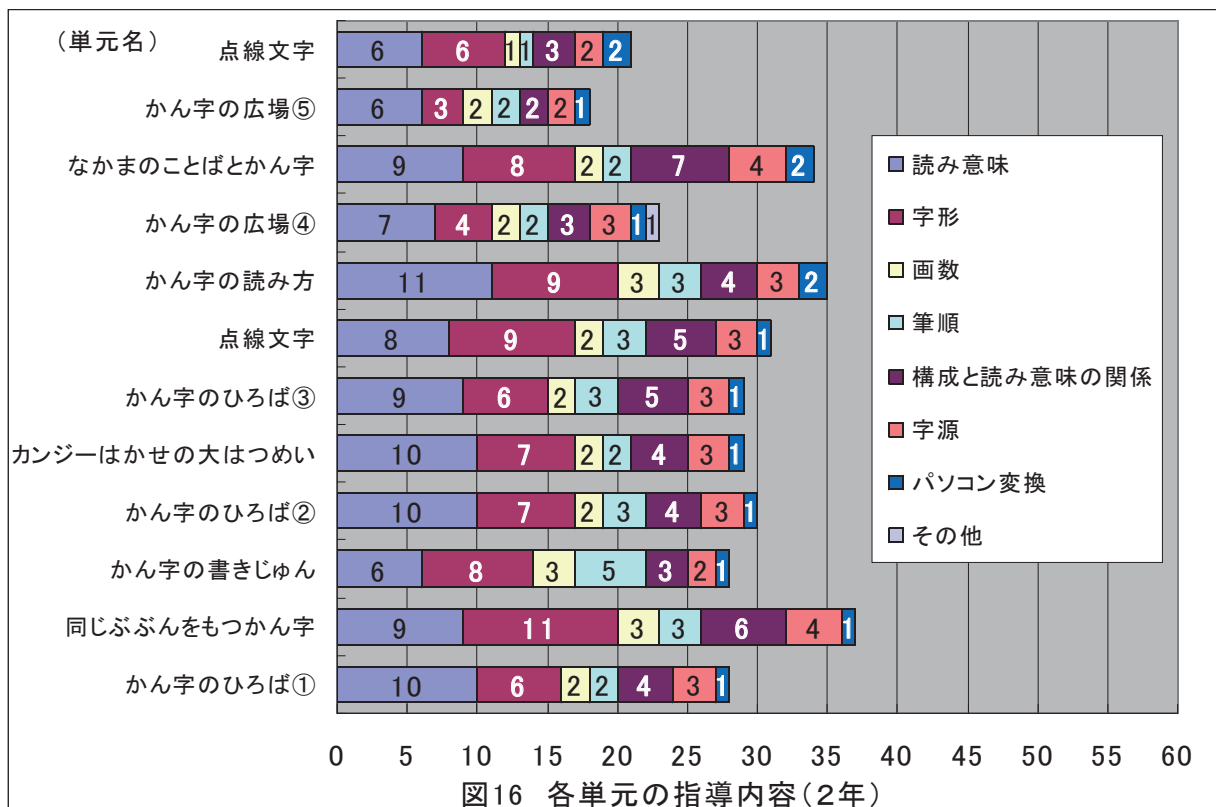
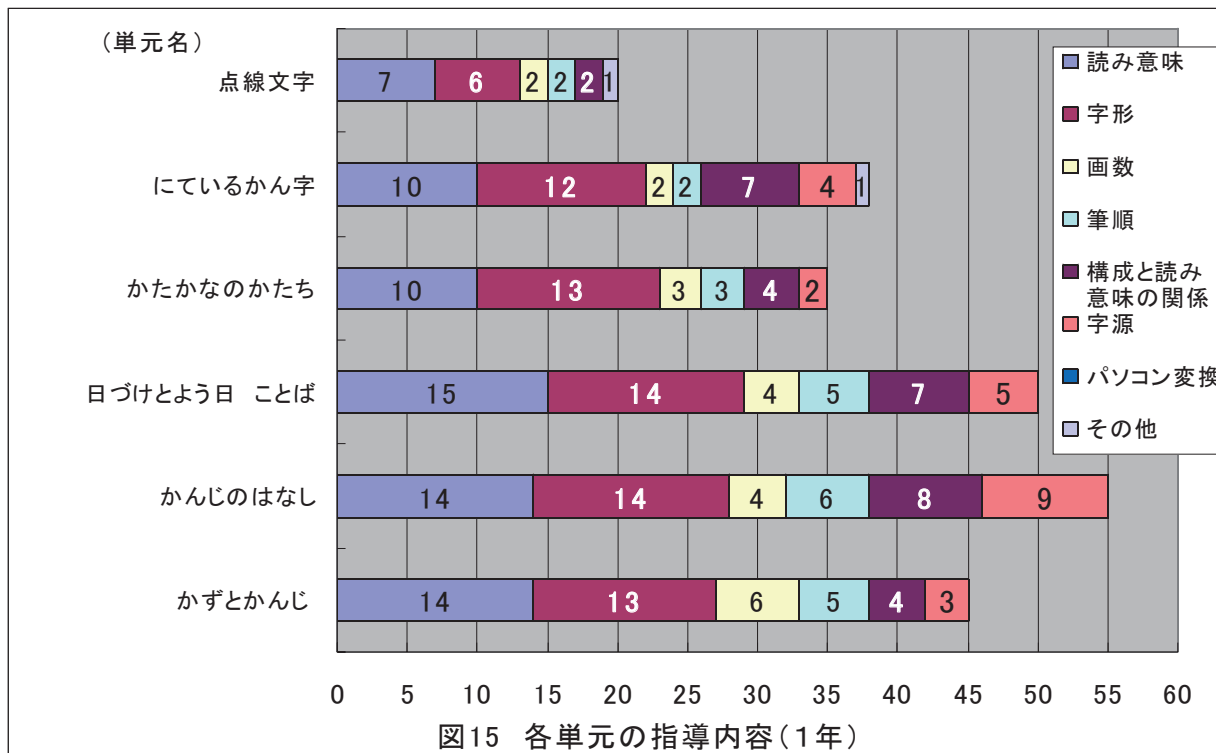
1年生											
かずとかんじ	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	
かんじのはなし	山	水	雨	上	下	月	田	日	川	竹 木	
日づけとよう日	日	月	火	水	木	金	土				
かたかなのかたち	か	き	こ	せ	へ	も	や	り	カ	キ コ セ ヘ モ ヤ	
	リ	ン	ソ	シ	ツ	ヌ	ス	ヲ	ラ	フ ワ ク セ ヒ マ	
	ア										
にているかん字	貝	見	学	字	人	入	木	本	右	石 右 左 土 上	
おぼえておきたいかん字	大	犬	人								
2年生											
同じぶぶんをもつかん字	木	林	森	村	本	休					
かん字の書きじゅん	三	川	十								
カンジーはかせの大はつめい	門	日	間								
おぼえておきたいかん字	目	耳	手	足	口	円	文	正	王	玉 男 女 米 先	
	生	糸	車	虫	草	花					
かん字の読み方	上	下									
なかまのことばとかん字	百	千	万	父	母	子					
おぼえておきたいかん字	雨	空	天	弓	刀	牛	魚	肉	言	工 士 立 止 力	
	出	早	夕	心	青	白	年	中	小	町 丁	
3年生											
漢字と友だち	山	日	川	月	休	名	自	男	岩	間 荷 宿	
4年生											
漢字の組み立て	く	さ	かん	むり	う	かん	むり	た	け	かん	むり
	こ	こ	ろ	れ	っ	か	しん	に	よ	う	ま
	だ	れ	く	に	が	ま	え	も	ん	が	ま
	え										
5年生											
漢字の成り立ち	馬	門	上	本	米	分	粉				
6年生											
漢字の形と音・意味	求	球	救	貨	花	化	精	静	晴	清	
	往	復	徒	待	後	脳	臓	肺	胃	腸	
									ハ	チ	
										リ	

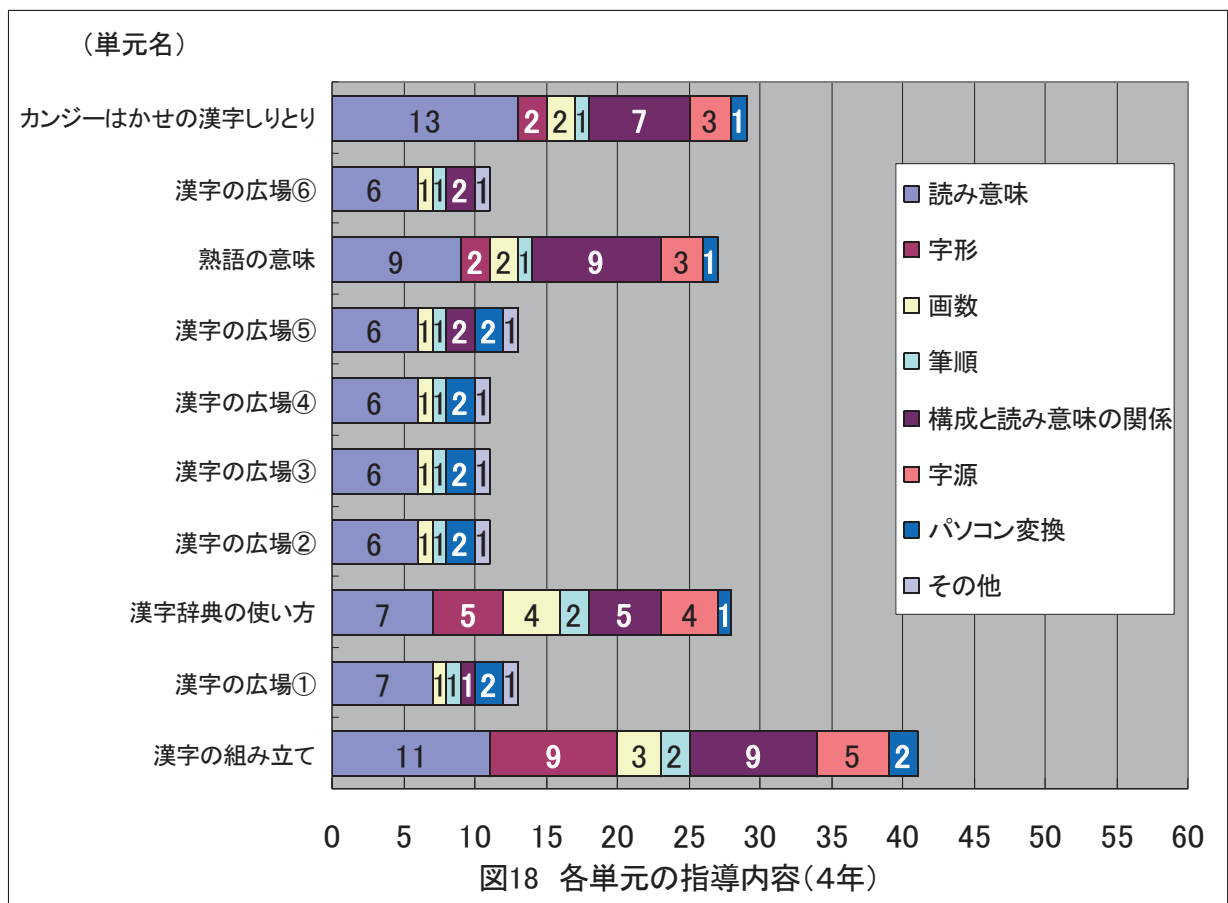
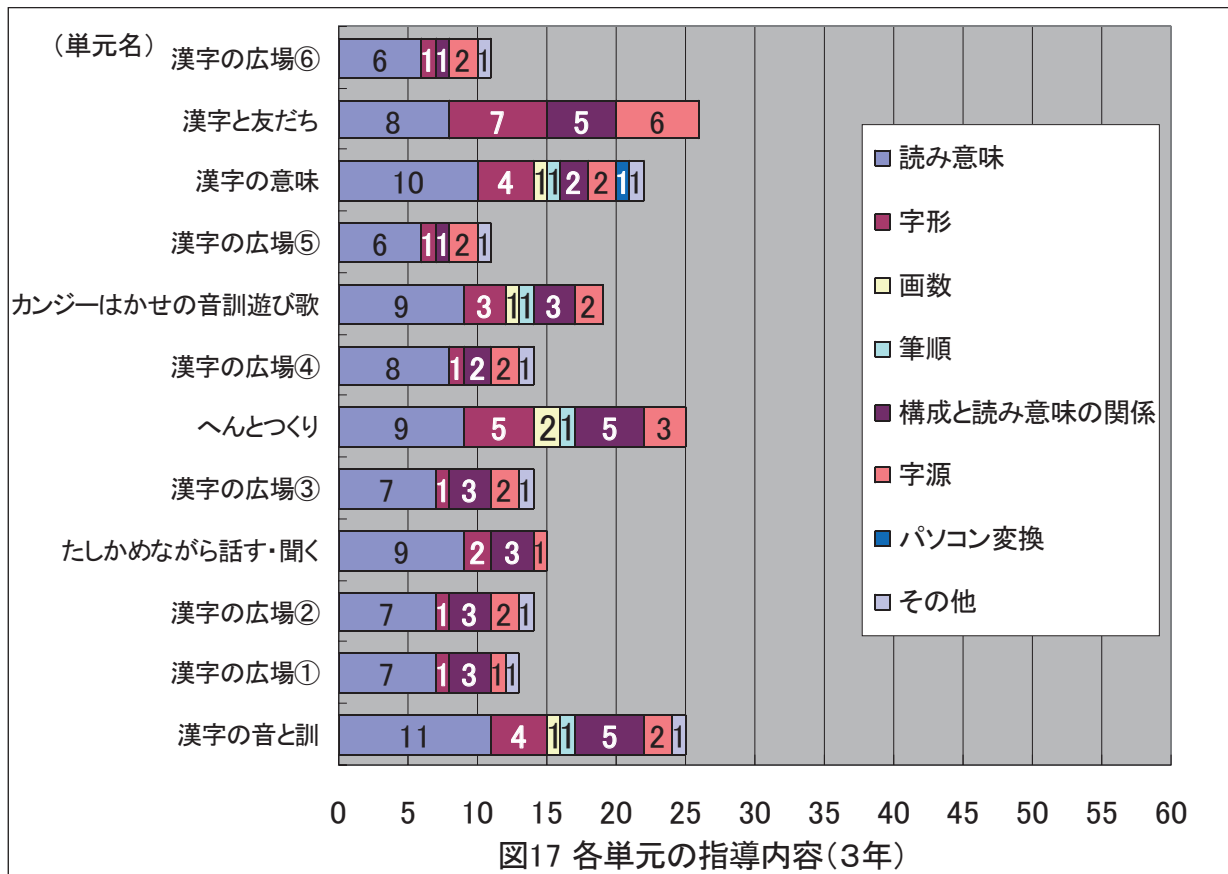
これらを見ると、1年の単元と2年の「かん字のひろば」を除いた単元の全てに何らかの点線文字が示されている。また、1年2巻から2年2巻までの巻末に掲載された「覚えておきたい漢字」の点線文字は、点字教科書編集資料によると、小学校学年別漢字配当の中から、①日常生活の中で字形をもとに語られる漢字、②部首のもとになる漢字、③画数が多いために児童の負担になることのない漢字が選定されている。これら点線文字のある単元の指導では、「点字教科書に点図として記載されている漢字を中心に指導している」ところが半数以上である。しかし、点線文字はあるが、「漢字には特に触れず、本文の内容にそって指導している」ところも少なからずある状況も明らかになった。3年以降になると、点線文字が掲載されている単元は少なくなる。しかしその単元についてはその点線文字を中心に指導しているところが多い。その他の単元については「漢字には特に触れず、本文の内容にそって指導している」ところ、「新出漢字を中心に指導している」ところ、また「新出漢字以外の漢字についても指導している」ところと分かれる。しかし、漢字の意味や音

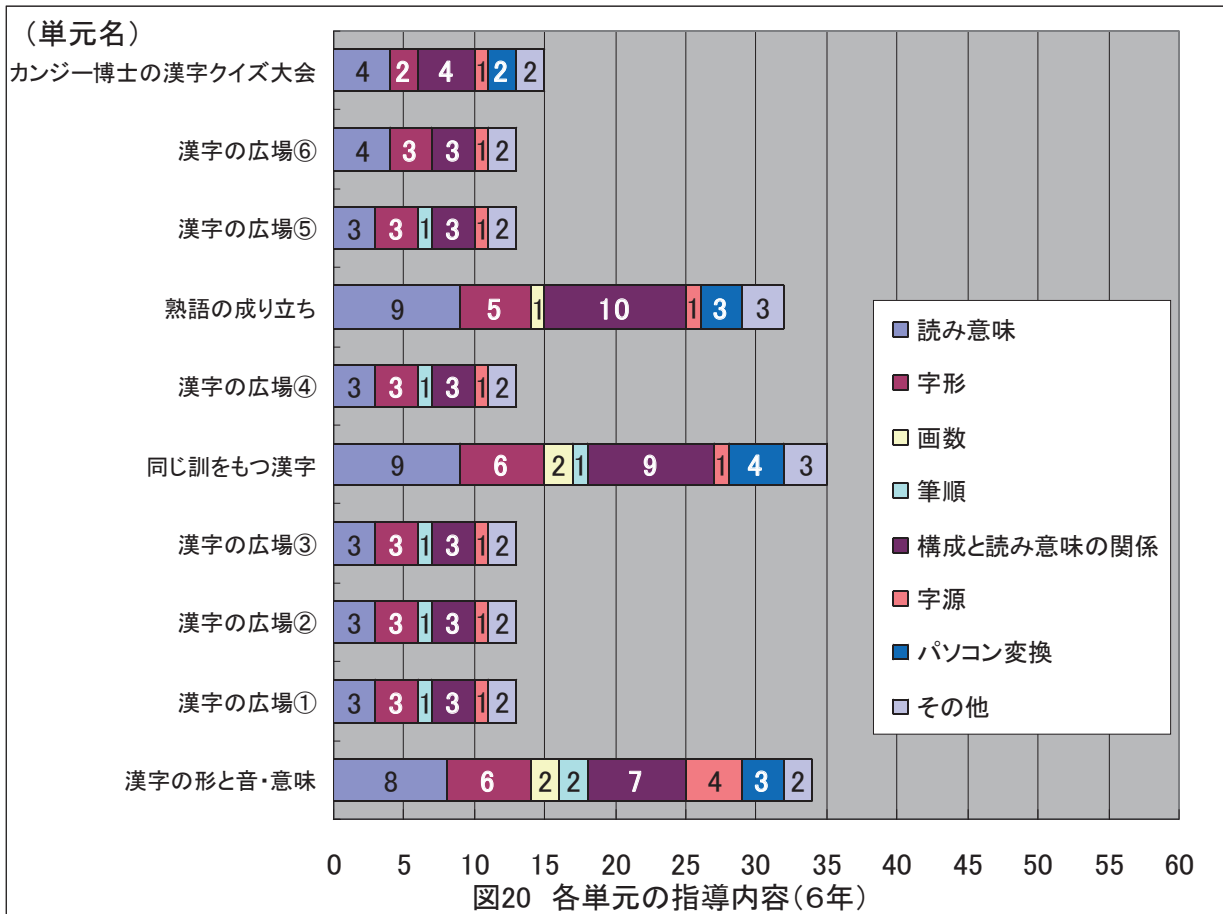
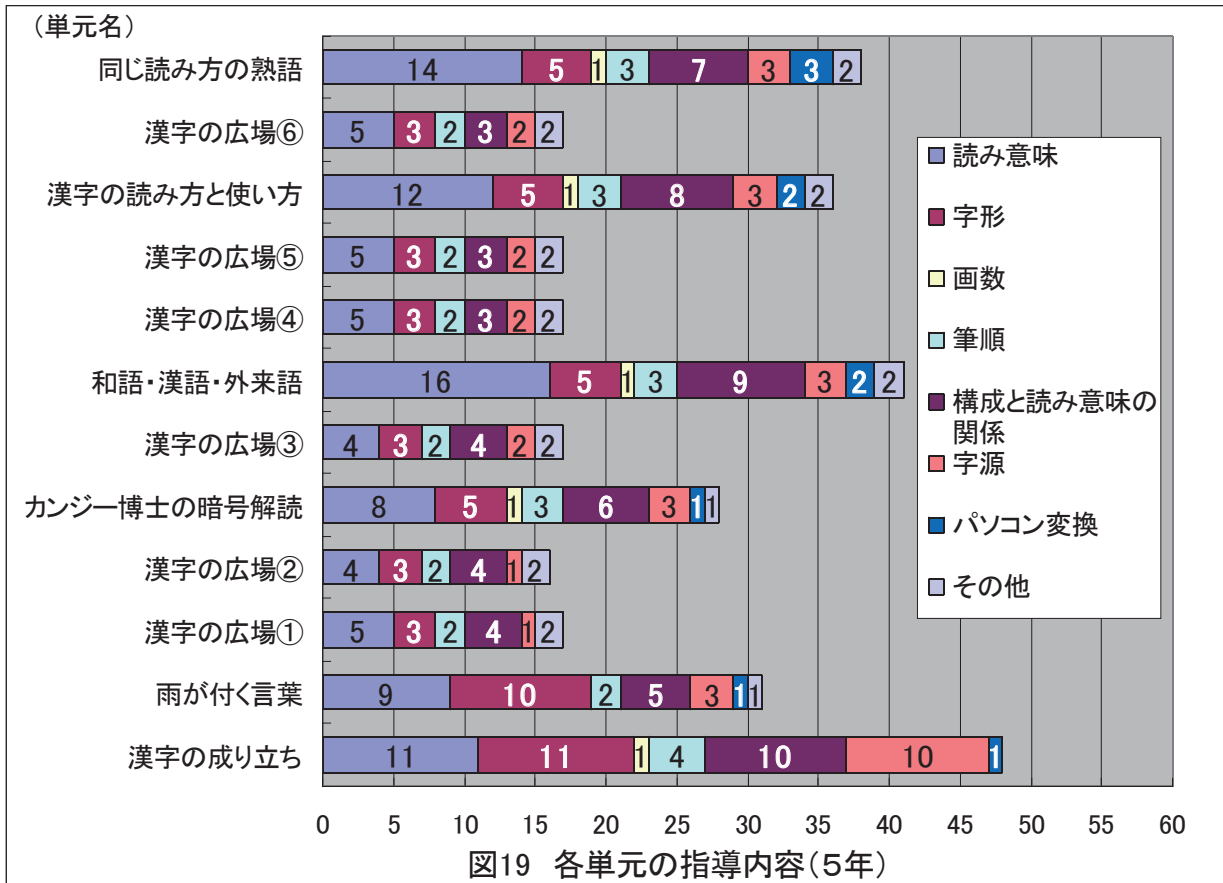
訓、熟語を扱った単元においては、新出漢字以外の漢字にも触れながら指導しているところが若干多い傾向がある。また、「その他」の指導状況としては、その単元の中でも使用頻度の高いであろう漢字を指導者が選んで指導しているというところがあった。

(3) 各単元の指導内容

次に各単元の指導内容を図15から図20に示す。この項目は複数回答可とした。







点字教科書中に点線文字が表示されている単元の多い1年・2年については、(2)指導状況でも述べたように、その点線文字を用いて読み・意味・字形ともに指導しているところが多い。またその漢字の構成と読みや意味の関係を関連づけたり、字源も含めて指導している。画数、筆順についても、1年・2年での指導が他学年に比べると指導しているところが多い。パソコンを用いた指導(漢字に変換しながら読みと意味を指導)は、2年生から一部みられる。6年の「同じ訓をもつ漢字」など音訓を扱った単元においては、パソコンを用いて指導をしているところがあるが、全体的に国語の授業の中で用いることは少ないようである。どの単元も読み・意味の指導を中心としながら、例えば、5年の「漢字の成り立ち」は、さらに漢字の構成とその関係や字源の指導、4年の「熟語の意味」や5年の「和語・漢語・外来語」、6年の「熟語の成り立ち」などは漢字の構成と読み意味の関係について、4年の「漢字辞典の使い方」は字形や画数の指導というように、各単元の目標に合わせた指導を行っている。その他の指導については、その漢字を使った短文作り、辞書の活用、語例や熟語を示す等があがっている。

(4) 補助教材の利用状況

次に各単元での補助教材の使用状況を図21から図26に、また補助教材を使用している場合、その種類について表4から表9に示す。

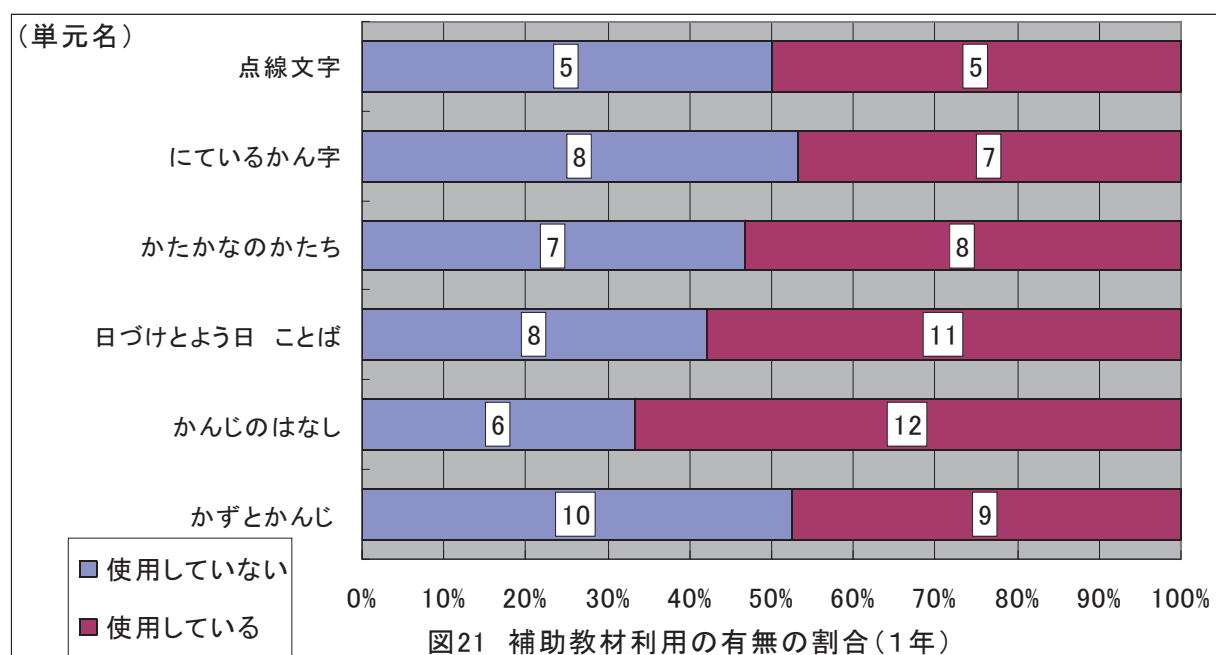


表4 補助教材の種類(1年)

単元名	自作教材				計	既製教材
	立体ホー	レスライター	点図	その他		
かずとかんじ	5	3	0	1	9	2
かんじのはなし	4	5	0	1	10	5
日づけとよう日 ことば	4	4	0	1	9	4
かたかなのかたち	4	3	0	1	8	4
にているかん字	4	2	0	1	7	5
点線文字	3	2	0	0	5	3
計	24	19	0	5	48	23

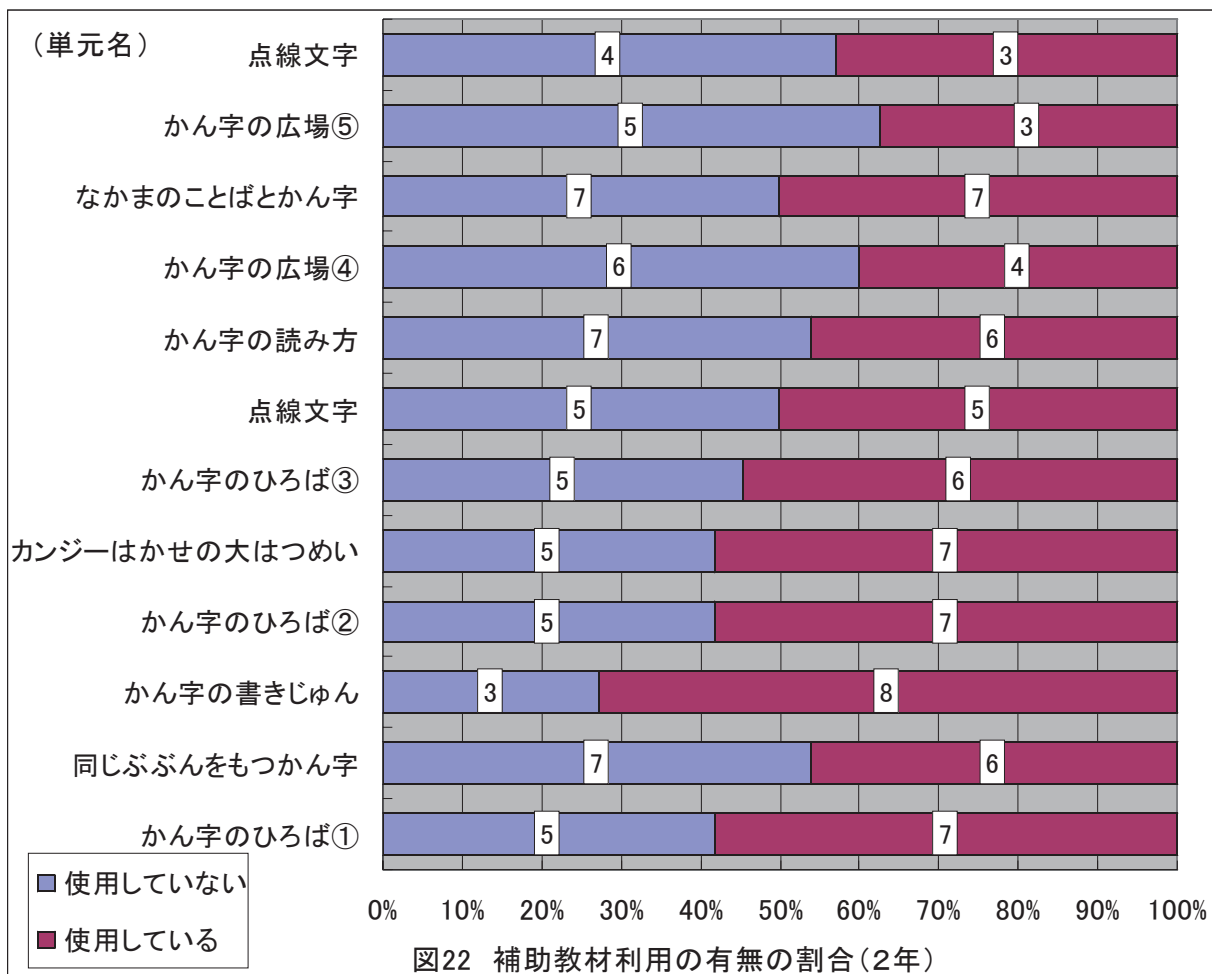


図22 補助教材利用の有無の割合(2年)

表5 補助教材の種類(2年)

単元名	自作教材				計	既製教材
	立体コピー	レーザーライター	点図	その他		
かん字のひろば①	4	2	1	0	7	1
同じぶぶんをもつかん字	3	3	1	0	7	2
かん字の書きじゅん	2	4	1	0	7	1
かん字のひろば②	2	5	1	0	8	1
カンジーはかせの大はつめい	2	3	2	0	7	1
かん字のひろば③	2	4	1	0	7	1
点線文字	1	4	1	0	6	1
かん字の読み方	2	4	1	0	7	1
かん字の広場④	3	2	1	0	6	2
なかまのことばとかん字	3	5	1	0	9	2
かん字の広場⑤	1	2	1	0	4	1
点線文字	0	2	0	0	2	1
計	25	40	12	0	77	15

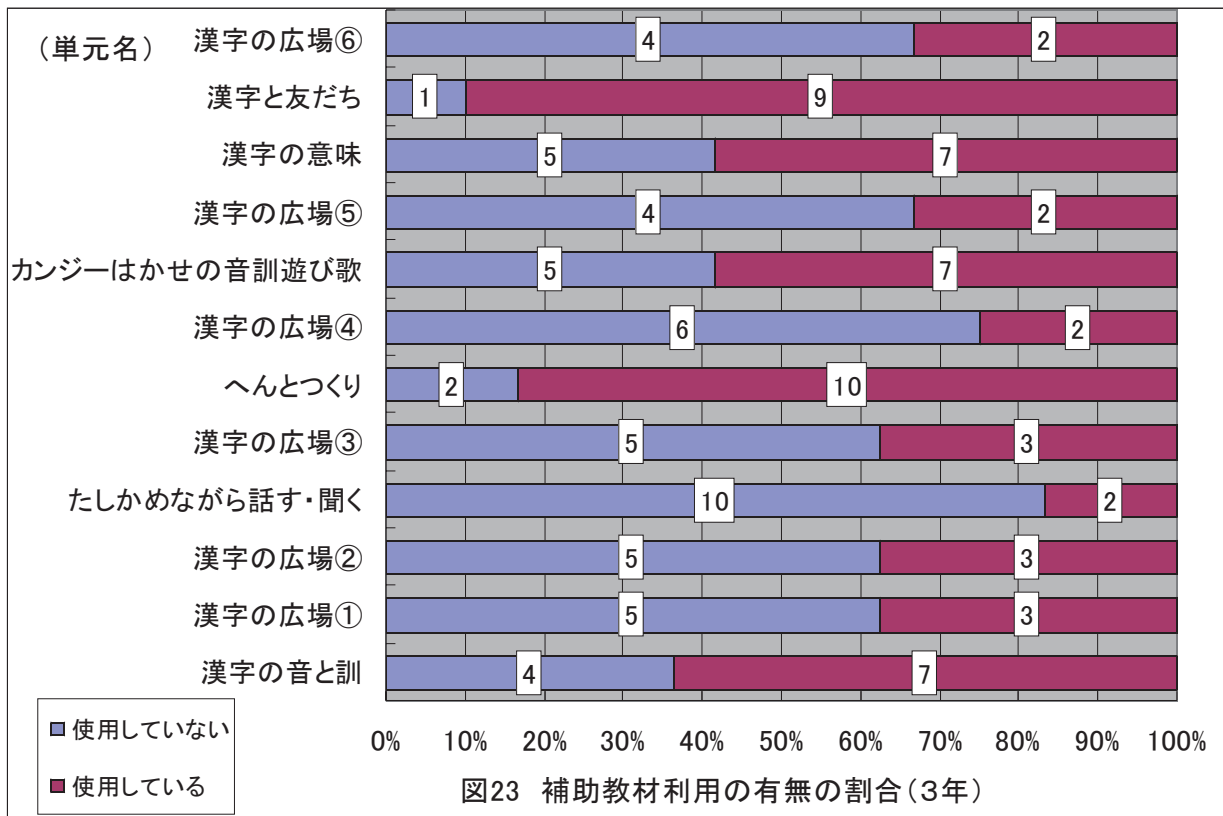


表6 補助教材の種類(3年)

単元名	自作教材					既製教材
	立体コピー	レーザーライター	点図	その他	計	
漢字の音と訓	2	2	1	1	6	3
漢字の広場①	1	1	0	0	2	2
漢字の広場②	1	0	1	0	2	2
たしかめながら話す・聞く	1	0	1	0	2	1
漢字の広場③	1	0	1	0	2	2
へんとつくり	4	1	3	1	9	4
漢字の広場④	0	0	0	0	0	2
カンジーはかせの音訓遊び歌	1	2	0	1	4	4
漢字の広場⑤	0	0	0	0	0	2
漢字の意味	2	2	1	1	6	5
漢字と友だち	2	1	2	0	5	6
漢字の広場⑥	0	0	0	0	0	2
計	15	9	10	4	38	35

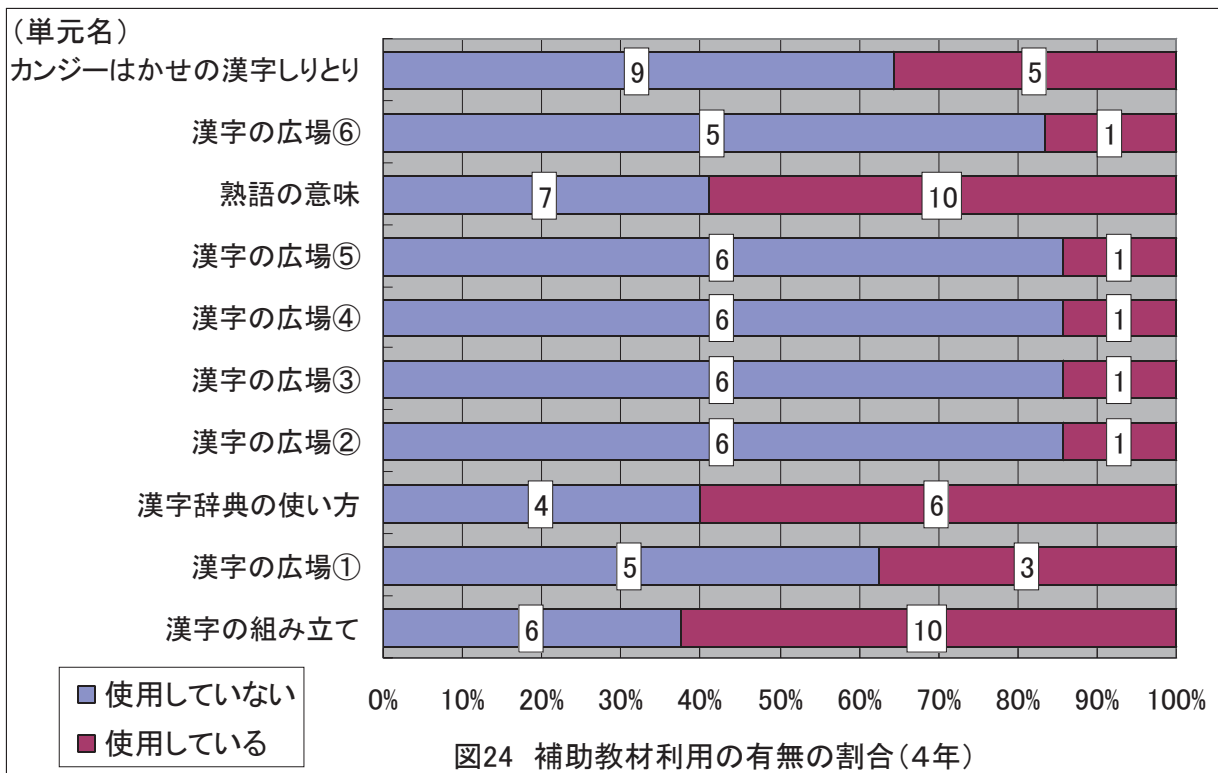


表7 補助教材の種類(4年)

单元名	自作教材				計	既製教材
	立体コピー	レズライター	点図	その他		
漢字の組み立て	4	4	1	4	13	3
漢字の広場①	0	0	0	1	1	2
漢字辞典の使い方	3	2	0	2	7	3
漢字の広場②	0	0	0	1	1	1
漢字の広場③	0	0	0	1	1	1
漢字の広場④	0	0	0	1	1	1
漢字の広場⑤	0	0	0	1	1	1
熟語の意味	3	1	0	2	6	2
漢字の広場⑥	0	0	0	1	1	1
カンジーはかせの漢字しりとり	3	1	0	2	6	2
計	13	8	1	16	38	17

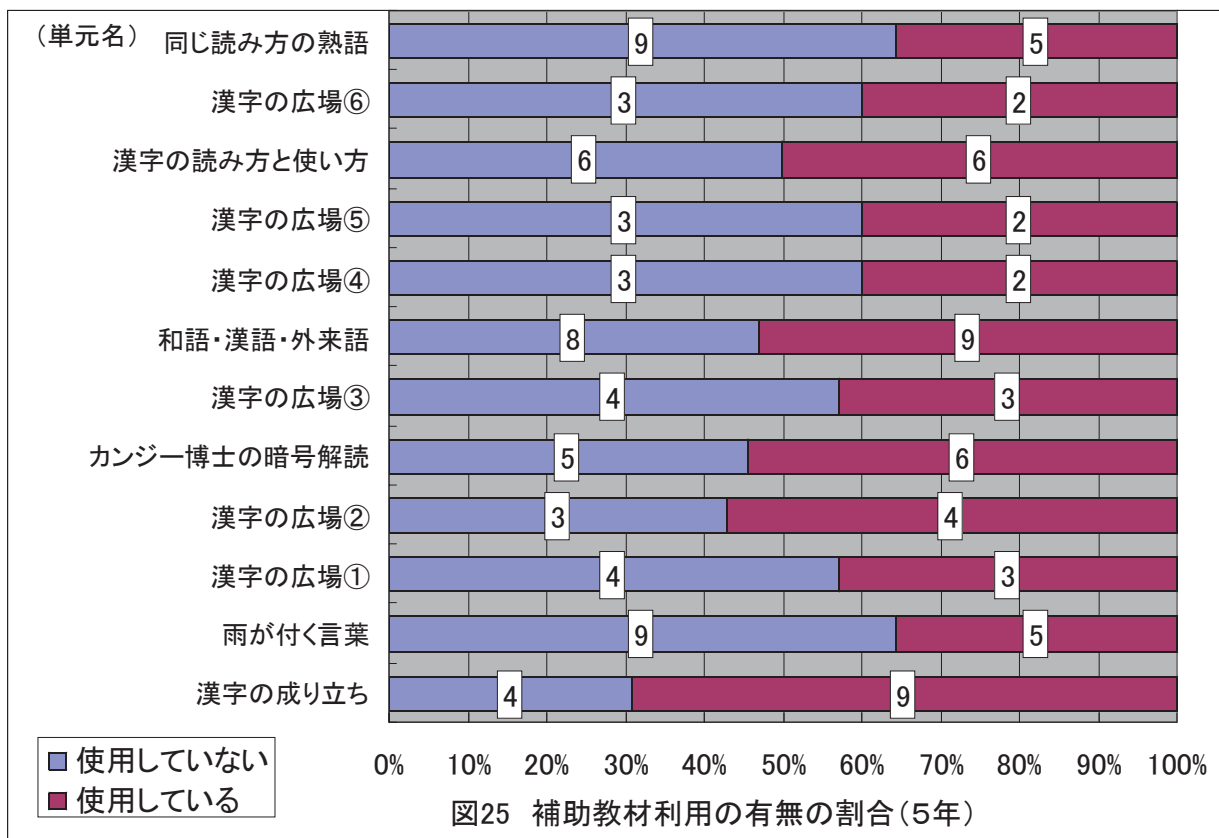


表8 補助教材の種類(5年)

単元名	自作教材				計	既製教材
	立体コピー	レスライター	点図	その他		
漢字の成り立ち	4	4	1	3	12	2
雨が付く言葉	2	2	1	0	5	1
漢字の広場①	1	1	1	0	3	1
漢字の広場②	1	1	1	0	3	1
カンジー博士の暗号解読	2	1	1	2	6	2
漢字の広場③	2	1	1	0	4	2
和語・漢語・外来語	3	2	1	2	8	3
漢字の広場④	2	1	1	0	4	2
漢字の広場⑤	2	1	1	0	4	2
漢字の読み方と使い方	4	1	1	2	8	3
漢字の広場⑥	2	1	1	1	5	2
同じ読み方の熟語	3	1	1	2	7	3
計	28	17	12	12	69	24

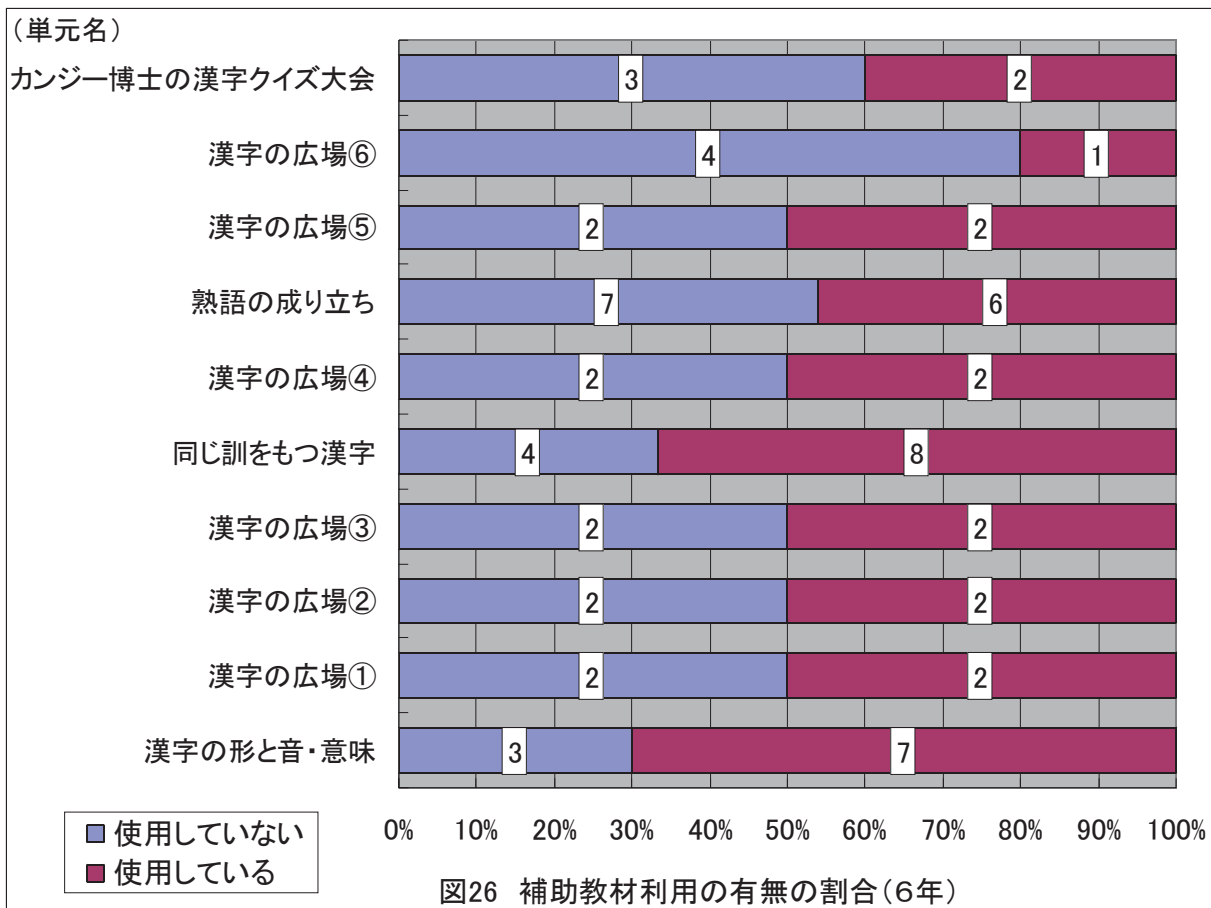


表9 補助教材の種類(6年)

単元名	自作教材				計	既製教材
	立体コピー	レスライター	点図	その他		
漢字の形と音・意味	3	3	1	2	9	3
漢字の広場①	1	0	0	0	1	2
漢字の広場②	1	0	0	0	1	2
漢字の広場③	1	0	0	0	1	2
同じ訓をもつ漢字	3	3	1	2	9	4
漢字の広場④	1	0	0	0	1	2
熟語の成り立ち	2	3	1	2	8	3
漢字の広場⑤	1	0	0	0	1	2
漢字の広場⑥	0	0	0	0	0	2
カンジー博士の漢字クイズ大会	1	0	0	1	2	2
計	14	9	3	7	33	24

補助教材活用の割合が多い単元（90 %から 65 %）は、3年「漢字と友達」、「へんづくり」、2年「かん字の書きじゅん」、6年「漢字の形と音・意味」、5年「漢字の成り立ち」、1年「かんじのはなし」、3年「漢字の音と訓」、4年「漢字の組み立て」、6年「同じ訓をもつ漢字」であった。また、(1)及び(2)の項目で、指導をしている割合が少なく、さらに指導をしているところでも、漢字には触れず本文の内容に沿って指導しているという回答が多かった「漢字の広場」については、全体的に補助教材の活用が少ない。その他の単元についてはおおよそ 50 %前後であった。

これら補助教材を活用していると回答したところのうち、その種類については、既製教材に比べ自作教材の利用が多い。これは点字使用児童に使用することのできる既製教材が少ない現状から当然の結果ではある。自作教材の作成方法については、簡便に作成できる「立体コピー」や「レーザーライター」が多い。コンピューターを使って点図を作成しているところは比較的少ない。また、その他の方法としては、サーモフォームの利用や、残存視力がある場合、一文字を大きくカードにして提示しているところが一部見られた。

(5) 点字使用児童に漢字を指導する際、配慮している点

上記項目についての自由記述を大きく次の5項目に整理した。

①音・訓・意味を中心に指導し、語彙例を提示する。

音・訓・意味を中心としながら、その漢字を使った文章例や同音異義語等を例示すること。

②身近な漢字が身に付くようにする。(名前・基本的な漢字等)

全ての漢字を指導するのではなく、例えば日常生活の中でよく出てくる漢字や基本になる漢字、自分の名前や住所に使われている漢字など、字種を選択して指導する。

③漢字の構成・字形・成り立ちを指導する。

学年の漢字にこだわらず、漢字の部首や旁など、後で部品として使えるものを優先する。漢字の字形から似ている字をさがしたり、漢字の構成と読みや意味の関わりに触れる。

④興味・関心がわくような工夫をする。(成り立ちの説明・漢字カード・パズル・ゲーム等)

点字使用の児童は日常的に漢字を使用していないので学習の定着が良くなかったり、興味関心がわきにくく継続しにくい。そこで、楽しく取り組めるような工夫を心がける。

⑤漢字指導導入前に縦・横・斜めの線をレーザーライターで書いたり・触ったりする指導を行う。

漢字の形を触察したり、レーザーライターで書いたりすることが漢字指導の過程で必要になるので、その前に十分にその基本となる指導をしておく。

(6) 国語の授業以外での漢字指導の有無（行っている場合の時間帯、時間数、内容）

国語の授業以外での漢字指導は、①朝の会や特別活動など、学校生活全体で気が付いたときに行っているところ、②自立活動の時間や③家庭学習でおこなっているとの回答があったが、全体的に授業以外に行っていないとの回答や無記入のところが多かった。時間数や内容については、他に指導すべき内容がある等の理由から、あまり行われていない実態が明らかになった。

(7)その他、漢字指導に関する課題

以下に漢字指導に関して、各指導者が課題に思っていることの代表的なものをあげる。

<漢字指導に関する課題>

- ・点字の習得も不十分であり、漢字の学習の時間を持つことが難しい。
- ・十分な時間が必要であるがその確保が難しい。
- ・教科書の内容を指導するのに精一杯で漢字に時間をかけられない。
- ・教材作りが追いつかない。
- ・交流教育を行っているので交流校の進度に合わせるように漢字指導を行わなければならない。補助教材が欲しい。
- ・「漢字の広場」は墨字教科書では絵と一緒に取り扱われており、点字教科書にした場合、あまり文脈がなく扱いにくい。どのようにしたら意欲的に学習を進められるのか。
- ・触察能力が発達しないと全盲児童に漢字を教えることは難しい。
- ・限られた時間なので、内容を精選していけると良いと思う。その基準が欲しい。
- ・小学校で扱う漢字を全て指導することは時間的に難しいし、点字を使用している児童には負担になる。どの字を指導すべきか、どんな順序で指導すれば効果的か。
- ・学年が進むに従ってだんだん漢字の形が複雑になり、分かりにくくなっていく。どうすれば興味を持って学んでくれるのか、どう工夫すれば良いのか。
- ・目的意識を持たせにくい。
- ・使う機会があまりないので知識として定着しにくい。
- ・パソコンで漢字変換することができるようになるためにはどのような力が必要か。どのように指導していったらよいのか。
- ・系統的に漢字指導ができない。
- ・どの程度の学習が必要なのか。
- ・別冊で漢字の資料編があると良い。
- ・系統的に指導できる資料集が別冊で欲しい。

これらの課題を整理すると、指導時間や教材作成時間の確保と指導方法に苦慮している実態が分かる。

盲学校点字教科書においてはその性格上、指導者が補助教材等を活用しながら、その内容を補うような配慮と工夫が必要である。しかしこれら(1)から(7)の項目の結果をみると、漢字指導の必要性は感じながらも、漢字を扱った単元を指導していないところや、漢字には触れずに本文に沿った指導に終わっているところ等があり、指導時間や教材作成時間の確保や、指導法等に課題を抱えている実態が浮き彫りになった。

これらの実態を考えると、効率よく学習できる系統だった指導プログラムや教材が切に望まれる。また、点字教科書とは別に各単元の補助教材を載せた漢字学習に特化した冊子や、点字使用児童を指導する場合の配慮点が記載された指導事例が含まれた学習指導書も必要ではないだろうか。